

伊方発電所周辺地域のお客さまへの訪問対話活動の実施結果について

今年度の訪問対話活動は、10月2日から11月8日までの間、伊方発電所から20km圏内のお客さまを対象に実施いたしました。

従来と同様、「広聴」に軸足を置き、地域の皆さまのご意見・ご要望を丁寧にお伺いするとともに、当社からは、「使用済燃料乾式貯蔵施設の概要」、「特定重大事故等対処施設の概要」、「伊方3号機の運転状況」や「1、2号機の廃止措置の進捗状況」等について、ご説明いたしました。

概要は以下のとおりです。

1. 実施状況

- ・期 間 令和元年10月2日（水）～ 11月8日（金）[実働27日間]
- ・訪問戸数 26,674戸（在宅率：約50%）

（内訳）

地 域		期 間	戸 数
伊方町	旧伊方町、旧瀬戸町、旧三崎町	10/2～10/26	4,425戸
八幡浜市	旧八幡浜市、旧保内町	10/2～11/8	15,173戸
大洲市	旧大洲市（一部）、旧長浜町（一部）	10/31～11/8	2,522戸
西予市	旧宇和町（一部）、旧三瓶町、 旧明浜町（一部）	10/17～11/8	4,554戸
戸 数 の 合 計			26,674戸

当社からの訪問者数 600名（のべ1,350人・日、従業員が2人1組で訪問）

2. 実施結果

今回の訪問対話活動の面談によるお客さまの印象は、各市町で若干の差異はあるものの、「一定の理解」がおおよそ8割を占めるなど、概ね昨年度と同じ傾向となりました。（図1）

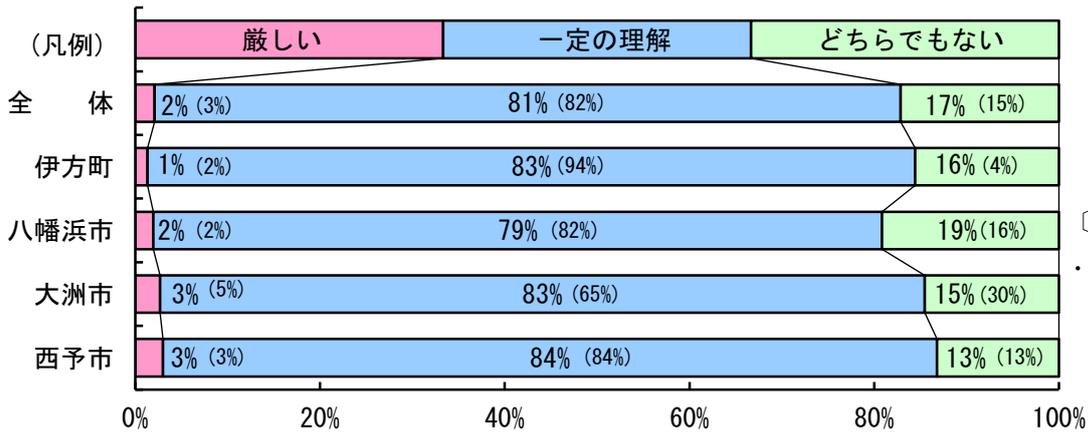
お客さまからの主なご意見については、特に重点的にご説明した「乾式貯蔵」と「特重施設」に対するご理解の件数が多く、特に乾式貯蔵施設については、2年続けてリーフレットを用いて丁寧にご説明したことで認知度が高まり、ご理解の件数が昨年度を上回りました。

一方で、全般としての「安全性・当社への理解」の件数が減少していますが、これは、昨年度には伊方2号機の廃止措置申請や3号機の差し止め仮処分からの運転再開があったのに対し、今年度は大きなトラブルなく順調に運転を継続していることから、伊方発電所に関する報道や話題に上る機会が少なかったことによるものと推測しています。（図2）

当社といたしましては、今回の活動でいただいたご意見をしっかりと受けとめ、原子力発電・伊方発電所への一層のご理解が得られるよう、引き続き、丁寧な理解活動、対話活動に取り組んでまいります。

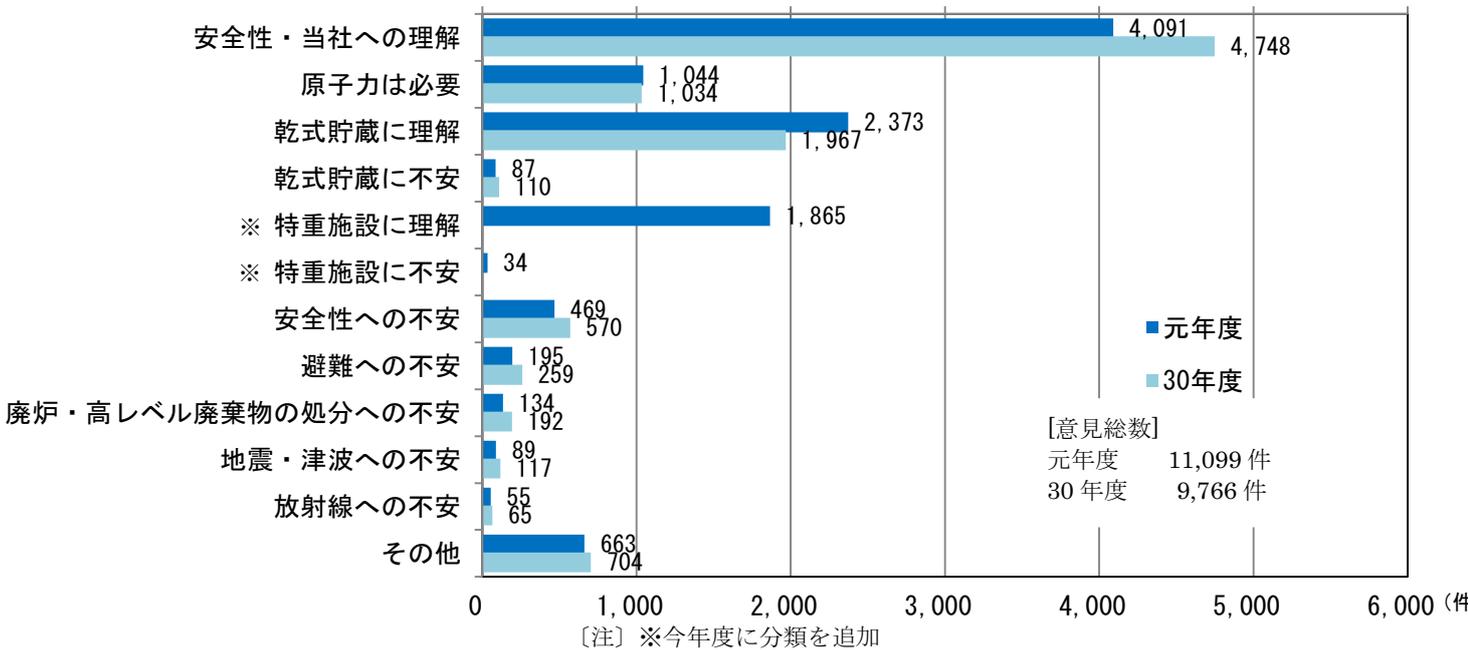
以 上

[図1] 面談によるお客さまの印象



[注]
・()内は30年度の値
四捨五入の関係で合計
が100とならない場合
がある

[図2] お客さまからの主なご意見



[参考] お客さまからのご意見 (抜粋)

- [厳しいご意見]
- ・原子力発電所は絶対的に安全ではないため稼働すべきではない。
 - ・高齢者が多いため避難が心配。津波が来たら避難できない。
 - ・使用済燃料の最終処分地は結局何も決まっていないので、原発に反対。
 - ・使用済燃料をいつまで置くのか。乾式貯蔵施設での保管は本当に一時的なのか。 など
- [一定の理解]
- ・安全最優先で原子力発電に取り組んでほしい。
 - ・地域の活性化、電力の安定供給のために原子力は必要。
 - ・乾式貯蔵施設について知らなかったが、説明を聞いて安心した。
 - ・更なる安全性向上のため、特定重大事故等対処施設は重要。 など